

# 一人一人の行動が医療体制を守る 医療機関・救急車の適正利用に協力を



昨年12月から年明けにかけては、インフルエンザの流行などにより医療体制がひっ迫し、救急車の出動件数も急増しました。緊急性の高い症状の場合は、迷わず救急車を呼ぶことが大切です。しかし、救急医療体制や救急車の数には限りがあり、軽症での安易な利用による問題が生じています。

誰もが必要ときに適切な医療を受けられるようにするために、「上手な医療のかかり方」を知ることが重要です。

問い合わせ先 健康課健康づくり担当 ☎(501)1134 📠(501)1135 📠1013579

## 救急車を呼ぶか迷ったときは



急な病気やけがなどの時、救急車を呼ぶかどうか判断できないことがあります。対応に迷ったときは、電話で医師や看護師などの専門家に相談することができます。相談内容から病気やけがの症状を把握して、緊急性が高いと判断した場合は、迅速な救急出動につなぎます。緊急性が高くないと判断した場合は、受診可能な医療機関や受診のタイミングについて助言します。また、「体調が悪いがどこの病院に行けばいいかわからない」といった相談にも応じます。

### 急な病気やけがの相談 医療機関案内

福岡県救急医療電話相談  
☎#7119  
☎(471)0099  
(24時間対応)

### 夜間・休日の子どもの 急な病気やけがの相談

小児救急医療電話相談  
☎#8000  
☎(731)4119  
受付時間  
▷月～金曜日(祝日を除く):午後7時～翌朝午前7時  
▷土曜日:正午～翌朝午前7時  
▷日曜日、祝日:午前7時～翌朝午前7時

### 全国版救急受診アプリ 「Q助」

消防庁が提供しているアプリです。当てはまる症状を画面上で選択していくと、緊急度の目安が分かり、必要な対応が表示されます。緊急度が高いと判定された場合は、アプリから119番に電話できます。詳しくは消防庁ウェブサイトを見てください。



## 「かかりつけ医」を持つ

かかりつけ医は健康に関することを気軽に相談できる上、必要に応じて専門医療機関や専門医などを紹介してくれる、身近で頼りになる存在です。

### 「3つのメリット」 かかりつけ医を持つ

- ①病気の早期発見**  
患者の健康状態をよく知っているかかりつけ医は、ちょっとした変化に気が付きやすく、病気の予防や早期発見、早期治療が可能になります。
- ②もしもの時の素早い対応**  
病状や病歴、薬のアレルギーなどを把握しているため、もしものときに素早い対応をしてくれます。
- ③専門医の紹介がスムーズ**  
入院や高度な治療が必要な場合に、適切な病院や専門医を紹介してもらえるため安心です。

### かかりつけ医の探し方

かかりつけ医は自分で選択できます。自分が信頼できると思った医師をかかりつけ医としましょう。  
健康診断や予防接種などで身近な医療機関に行くことも、かかりつけ医を

見つけるきっかけになります。県内の医療機関を検索できる「ふくおか医療情報ネット」も活用してください。



▲ふくおか医療情報ネット

## 「コンビニ受診」を控える

「コンビニ受診」とは、「平日の昼に行く時間がないから」夜間の方が安い

ているから」などの理由で、急を要しない症状にもかかわらず、一般診療を行っている夜間や休日に救急外来などを受診することです。  
コンビニ受診が増えると、本来に救急医療が必要な人の受け入れや処置に支障を来すだけでなく、救急医療に携わる医師やスタッフの負担が大きくなり、地域の救急医療体制が維持できなくなる恐れがあります。  
比較的軽微な症状や、仕事や用事を調整して、できるだけ日中の診療時間内に受診しましょう。診療にかかる費用も、夜間診療や救急外来よりも安くなります。

誰もが安心して医療を受けられるようにするとともに、地域の医療体制を守るために、上手な医療のかかり方を、行動することが大切です。詳しくは厚生労働省ウェブサイト「上手な医療のかかり方」を見てください。  
緊急の電話相談窓口や、かかりつけ医を選ぶポイントなども紹介しています。



▲上手な医療のかかり方

## インタビュー



春日・大野城・那珂川消防署 消防司令補

藤村 慎也 さん

春日・大野城・那珂川消防署における令和6年中の救急出動件数は、1万2,956件です。出動件数は増加傾向にあります。夏の暑い時季や冬の寒い時季は、特に出動が増えます。

管内には6台の救急車があり、要請のあった現場に1番近い消防署の救急車を出動させています。もし、近くの救急車が全て出動している時は、遠くの救急車が出動するため、到着が遅れが生じることもあります。

全国的な例として、どこの病院に行けばよいか分からない、救急車でいった方が優先される、自家用車がない、などの理由で救急車を呼ぶケースがあります。救急車は限られた資源です。本当に必要な人が速やかに処置を受けられるよう、救急車の適正利用に協力をお願いします。

もちろん、緊急と判断したときは、ためらわずに119番に連絡してください。迷いがあるときも、医師と連携しながらアドバイスします。